

碑文

第二次世界大戦が転機をむかえた昭和十八年、日本の戦況は急に悪化し、存亡をかけた総力戦となるこの年十月、二千五百余の若人は学業をなげうち陸軍特別操縦見習士官として祖國の危機に立ち上った二期、三期、四期と続く、ペンを操縦桿にかえた学鷲は懐疑思索を超え、肉親、友への愛情を断ち、ひたすら民族の栄光と世界の平和をめざして、死中に生を求めようとした

悪条件の元夜を日についだ猛訓練を行ない学鷲は遠く大陸、赤道をこえて雄飛し、あまたの戦友は空中戦に斃れ、また特攻の主力となって自爆、沖縄、本土の護りに殉じたのであった 無名の栄誉は歴史に刻まれたが、愛惜と悲しみは尽きない

平和は血と涙により築かれた、われらは心から祖国を愛し、平和を願う ここに兄等の栄誉を讃え、その靈を慰むるとともに、特操の果たした役割を永く後世に伝えんとするものである

昭和四十六年三月二十一日建之

特操会